



おのじゅんいち
小野 順一
緑 政 会

土砂（軽微）災害の対応について

～ 市民の自助・共助力に感謝 ～

答 市長
市道については、市内の建設業者と締結している「災害時における緊急作業についての協定書」に基づき対応しています。

質
本年2月、46年ぶりの大雪に見舞われ、除雪作業に多くの市民の方に力添えをいただいております。本市は豪雨による災害の恐れがあります。軽微な災害の対応として市民の方による「お助け隊」なる組織の立ち上げによってこういった災害についての対応をしようか。

質
山間地域には不在地主が増えている。生活道に流出した土・石を簡易に除去できる条件整備はできないか。

今回の除雪のように、建設業者が保有する機材・人材では間に合わない場合や、機材の運搬ができない場合も予想されます。他市の制度を調査し、重機の機種・運転資格者・作業範囲の把握・補助金額算定等の事務量や労働災害保険・傷害保険の費用等を検討し、合理的で有効な制度があれば参考にしていきたいと考えます。

答 市長
「非常災害時における土地の一時使用」の場合を除き、道路の維持管理には隣接する土地所有者や仮設設備用地、土捨て場の用地の所有者の協力が不可欠です。まずは地域で不在地主と連絡が取れ、協力依頼できる関係を保っていたいただくことをお願いしたいと考えます。



※ AED（自動体外式除細動器）について

～ 公共施設等に 55 台設置 ～



消防車に積載している AED

※ AED（自動体外式除細動器）＝心臓突然死の原因である心室細動に電気ショックを与えることにより正常な状態に戻す機器。

質
現状と今後の取り組みは。
答 市民生活課長
平成18年度に市役所に設置、その後多くの人が集まる学校施設・体育施設・社会福祉施設等に順次設置しています。市民がいつでもどこでも・だれでも利用できるよう今後も講習会を開催していきます。

認知症脳ドック検査費用の無料化を

～ 支援の予定はない ～

質
本市における認知症対策について4点の視点から執行部の見解を問う。
認知症対策の事業展開と実態は。
徘徊認知症患者に対する対策は。
軽度認知症患者への脳ドック検査での無料化は。



みやなりあきよし
宮 成 昭 義
市民クラブ

答 市長
本年4月時点で、本市における日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者数は1984人で「認知症になっても本人の意思が尊重され、地域の良い環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目指し、7つの視点で施策展開していきます。

徘徊患者に対する対策としては、住民との連携を地域包括支援センターが中心になり個別対応を行っています。また、本年度、※認知症SOSネットワーク要綱を定め、関係機関と連携し緊急時に備える体制づくりを進めます。
脳ドックの無料化については、現時点で市として支援する予定はありません。



認知症ケア研究会による講演会の様子

質
平成27年度より市内全ての小・中学校で実施されるが、取り組み、推進はどのように進めるのか。

※ 連携型小・中一貫校教育の取り組みは

～ 朝地小・中学校での推進状況を手本に推進 ～



朝地小・中学校

答 学校教育課長
ただし三重町においては地理的、物理的条件が異なるため、独自のスタイルを確立したいと考えています。
答 教育長
朝地小・中学校を手本にコミュニティスクールを順次設置し、9年間を見通した教育課程を編成し、学習指導や生徒指導を行います。

※認知症SOSネットワーク要綱＝行方不明となった認知症高齢者等を地域の協力を得て早期に発見し、保護するためのもの。
※連携型小・中一貫校教育＝9年間を見通した一貫した教育課程を編成し、小・中学校の教職員が協働して、児童・生徒の発達段階に応じた系統的・継続的な学習指導や生徒指導を行うもの。